

授業科目名 ( 英文名 )	電子物理セミナー (Advanced Seminar on Physics of Electronics II)	科目区分 対象学生	
単位数	2.00	開講年次・ 学期	1、2、3年次・前期
担当教員	本多 信一 豊田 紀章 藤井 俊治郎	所属	工学研究科
オフィス・場所		連絡先	
講義目的及び到達目標	<p>講義目的 電気物性工学専攻および電子情報工学専攻の教員によって放射線・イオンビーム工学関連の各専門分野の事項について以下のように分担してセミナーを行い、学生達が独立した研究者に育つよう教育する。</p> <p>到達目標 粒子線および放射光、線が物質（原子、原子核）と相互作用するときに引き起こす様々な現象と、物性科学、工学研究で広く用いられている、光、粒子線をプローブとして、物質の応答の様子により、物質の性質を探る方法について理解を深める。</p>		
講義内容・授業計画	<p>( オムニバス方式 )</p> <p>( 本多信一教授 )</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 高速イオン散乱法</li> <li>2 イオン注入技術</li> <li>3 多価イオン応用</li> </ol> <p>( 豊田紀章教授 )</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 イオンビーム発生技術</li> <li>2 イオンビーム照射効果</li> <li>3 粒子線応用技術とその具体例について</li> </ol> <p>( 藤井俊治郎准教授 )</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 低速イオン散乱法による表面及び界面の評価</li> <li>2 低速イオン散乱法による組成分析と構造解析</li> <li>3 低速イオン散乱法による材料物性評価の実例</li> </ol>		
テキスト			
参考文献			
成績評価の基準・方法	主要項目についてレポートを課す。レポート(100)で評価する。		
履修上の注意・履修要件	<p>&lt; 新型コロナウイルス感染症に伴う特例措置に基づく遠隔授業 &gt;</p> <p>当授業は、原則全ての授業を対面で実施する予定ですが、履修者人数によっては、新型コロナウイルス感染症対策として、履修者を複数の教室に分けて教室間をオンラインで繋ぐ方法や、対面授業と自宅でのオンライン授業を隔週実施する方法とすることがあり、自宅等でオンライン授業の受講を視聴できる通信環境(PC・タブレット等の端末やWi-Fi環境)が必要となる場合があります。最終的な授業方法は履修登録後に決定・連絡します。</p>		
実践的教育	該当しない		
備考			